



はとの子だより

No.4 令和4年6月29日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

支え、支えられるつながり

6月に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大傾向に、やや陰りが見え始めました。このことに伴い、健康・衛生管理上の様々な規制が、徐々にではありますが緩和されつつあります。

これと軌を一にして、PTAにおける保護者の方々のボランティア活動が再開されています。よみ語りボランティアの方々は、オンライン形式で3年ぶりに読み語りを実施しました。5年生の子どもたちは、画面越しではありますが、ボランティアの方が読んでくださる絵本の内容に聞き入り、興味がある内容に反応しながら参加していました。長かった閉鎖的な日々を忘れさせてくれた瞬間でした。



グリーンボランティアの方々による観葉植物のお世話も定期的に進めていただいております。おかげで、校内の緑がみるみるうちに色濃くなってきました。

先日は、シュフレラの先に小さなつぼみが膨らんでいました。20年に一度だけ花を咲かせる植物なのだそうです。本校在籍中にこの花を見ることは二度とない可能性が高いわけです。2か月から3か月程度で花が咲くとのこと。貴重な瞬間を逃すわけにはいかなくなりました。毎日をせわしなく送りがちな私たちの日常に、ふと立ち止まって小さいようでいて大きな変化に気付かせてくれる方々がいらっしゃるありがたさを、改めて実感させていただきました。

附属特別支援学校との連携による「よつば学習」が、本格的に始まりました。5年生は、昨年度まで交流していた特別支援学校の友達について、スライドで近況を確認しました。



「あ、〇〇くん、ヘアースタイルが変わったんだ」と嬉しそうな表情を見せる子や、特別支援学校の先生から「□□さんは、だいぶ背が伸びましたよ」と教えてもらい、「へー、早く会ってみたい」と交流に思いを馳せる子もいました。

多様な特性をもつ者同士が社会の中で支え合いながら生きていく基礎を培うことが、「よつば学習」の目標です。附属特別支援学校に通う子も、附属小学校に通う子も、互いのよさに学び合い、互いの困り感を補い合う関係をつくっていけるよう、交流の充実を願わずにはられませんでした。



6月24日（金）には、第1回学校評議委員会を実施しました。こちらも3年ぶりの対面による実施でした。かつて本校で校長や副校長、PTA役員をお勤めくださった5名の委員の皆さんに、久しぶりに校内を一巡していただきました。

委員の方々からは、学び合い、関わり合う子どもたちの姿をはじめとして、様々な側面から子どもたちのよさを見取っていただき、たくさんの励ましの言葉をいただきました。保戸野地域にお住まいの委員の方からは、子どもたちの挨拶や、道端で声を掛けたときの応答など、学校外での姿からも成長の跡を見つけていただきました。いただいたお言葉の一つ一つを、これからの学校運営に生かしていきたいと思いました。

6年生は、オーストラリアの小学校と、オンラインで交流会を実施しました。好きなことや将来就きたい職業などについて、生の英語で会話できる貴重な機会となりました。相手の言葉がうまく聞き取れないときは、はっきりと聞き直したり、逆に相手が聞き取れなかった様子が見られたときは、画面越しの表情から察して言い直したり、英語以外の要素も大切にコミュニケーションの場を楽しんでいました。



さて、その6年生は、公開研究協議会の余韻が冷めやらぬうちから、校内研究会で算数と理科の授業を提示しました。

算数では、分数の割り算で出た余りを、具体的な生活場面でどのように表すかにつ

いて、グループ全員で頭を悩ませながら説明を試みました。理科では、呼吸の働きについて説明するために、複数の実験の結果を持ち寄って法則性を見だし、結論を推測するためにグループのメンバーが一人一人自分の役割を果たそうとしていました。

どちらも、一人では解決できない課題にグループや学級全体で向き合い、一人一人が自分の役割を自覚して解決を目指そうとする姿が印象的な授業でした。

たくさんの方々との関わりの中で、支え支えられて生きていくことのよさを、しみじみと実感できた6月でした。